

令和7年度 学校評価報告書

津市立一志東小学校
校長 金児 正嗣

1 学校経営の改革方針

【学校教育目標】 よく学び、心豊かで活力ある川合っ子の育成

(1) めざす学校像

- ① 家庭・地域との連携を大切にする学校
- ② 家庭・地域から信頼される学校
- ③ 家庭・地域との連携と信頼のうえに立った「地域立」の学校（家庭・地域と一体となり、ともに子どもを育み、ともに歩む学校）

(2) 重点目標及び具体的な行動計画

① 学力向上の推進

- ア 自分の考えを表現する力を高める授業づくり、分かる授業づくり、個に応じた授業づくり、少人数習熟度別授業等に取り組みます。
- イ 子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」及び「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、タブレット端末を授業や家庭学習で積極的に活用します。
- ウ 小1プロブレムの課題解決に向け、架け橋期カリキュラムの実践を含めた保幼小連携を推進します。
- エ 教員の授業力向上を図るため、研究授業及び事後研修に取り組みます。
- オ 基礎学力の定着を図るため、タブレット端末の学習ドリル等を活用するなど、個に応じた支援に取り組みます。
- カ 多くの知識や様々な考え方に触れるよう、読み聞かせや読書活動の充実に取り組みます。

② 豊かな人間性の育成

- ア 「子どもの行動には訳がある」からスタートし、差別の現実から学ぶ視点を大切にし、身の回りの人権課題の解決に向けて取り組みます。
- イ 一志中学校区人権教育カリキュラムに基づき人権学習を推進するとともに、研究授業及び事後研修に取り組みます。
- ウ 出会い学習を通して、支え合い、共に行動する仲間づくりを進めます。
- エ 人権なかよし集会等を実施し、日常生活の中で人権を大切にする態度が養われるよう取り組みます。
- オ 家庭・地域と連携し、ふるさと「川合」を学びのステージとした実践に取り組みます。
- カ すべての教育活動を通して「至誠」「凡事徹底」（当たり前のことを徹底的に行うこと）を大切にします。

③ 健康・安全・体力向上活動の推進

ア P T A安全パトロールや関係機関との連携による登下校時の安全確保に努めます。

イ 災害、不審者侵入を想定した「避難訓練」「引き渡し訓練」等の緊急時の対応や防災教育を推進します。

ウ 食育の推進と食物アレルギーへの対応、歯みがきタイムの実施など保健教育を推進します。

④ その他

ア 学校運営協議会を開催し、教員が不足している状況の中、地域学校協働活動を含めた支援体制の強化を図り、地域とともにある学校づくりに取り組みます。

イ 学校での児童の様子を、インターネットを活用し、保護者に届けます。

ウ 家庭との連携による「ICHISHI 家庭教育スタンダード（学習・生活・情報モラル）」の活用に取り組みます。

エ 中1ギャップの課題解決に向け、小小連携、小中連携を推進します。

オ 働く環境の整備、職場の健康管理、総勤務時間縮減に向けて継続的に働き方改革を実行します。

2 学校自己評価、学校関係者評価の結果

〈学校自己評価の結果〉

(1) 学校経営

- ① 学校教育目標である「よく学び、心豊かで活力ある川合っ子」の育成に向け、令和7年度学校経営改革方針に基づき、全職員が一丸となって教育活動を実施することができた。諸計画については、各担当教職員が9月時点で上半期の進捗状況を確認し、下半期に取り組む課題を共有し、進めることができた。
- ② タブレット端末を授業で積極的に活用し、子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学びと協働的な学び」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて取り組むことができた。
- ③ 幼児期から小学校への連続した学びを実現する津市架け橋プログラムの実施に向けて、保育園、幼稚園、小学校でワーキング会議を実施し、交流及び連携を深めることができた。
- ④ 学校満足度アンケートでは、「学校は楽しい」と答えた児童の割合は87%であり、昨年度の90%を下回った。今後、より一層児童が笑顔で楽しく学校生活を過ごせる取り組みを進めていくよう努めたい。
- ⑤ 教員が不足している状況の中、学校の努力だけで児童一人ひとりの教育的ニーズや安全確保に対応していくことには限界が生じている。このことについて学校運営協議会で共通理解を図るとともに、職員間でも共通理解を図り、地域学校協働活動を含めた支援体制の強化（保護者や地域の方々による授業の補助や登下校時の見守り等）を検討することができた。今後、早急に具体的な取組を進めていく必要がある。

(2) 学力向上の推進

- ① 学校満足度アンケートでは、「学校の勉強はよくわかる」と答えた児童の割合は85%であり、昨年度の86%を下回るとともに目標値の90%を下回った。また、「勉強で分からないことがあったら、先生に聞くことができる」と答えた児童の割合は76%であり、昨年度の80%を下回った。今後、より一層分かる授業づくり、個に応じた授業づくりを進めていく必要がある。
- ② 「全国学力・学習状況調査」（6年生）における「児童質問紙」の結果から、「ICHI SHI 家庭学習スタンダード」に基づき、今後、より一層家庭での学習習慣及び読書習慣の確立に向けて取り組んでいく必要がある。

(3) 豊かな人間性の育成

- ① 一志中学校区人権教育カリキュラムに基づき各学年で人権学習を進めることができた。
- ② 身近な人権問題の解消に向けた人権教育の推進について、全職員でより一層の共通理解を図ることができた。
- ③ 出会い学習を実施し、身のまわりの人権課題を自分事として考え、解決に向けて共に行動できる児童の育成を図ることができた。
- ④ 仲間づくりレポート検討を実施し、全職員が児童の身近な生活の中にある人権課題に気づき、児童の思いや言動の背景にある生活の実態を多面的に共通理解し、継続的に支援することにより児童や集団の成長を促進し、反差別の仲間づくりを進めることができた。今後も、より一層反差別の仲間づくりを進めていくよう努めたい。
- ⑤ 学校満足度アンケートで「学校で、いじめられたり悪口を言われたりすることなく、安心して過ごせている」と答えた児童の割合は87%であり、昨年度の80%を上回った。今後も、児童一人ひとりにしっかりと寄り添った取組を図っていきたい。
- ⑥ 学校満足度アンケート（児童）では「あいさつを、しっかりしている」と答えた児童の割合は79%であり、昨年度の80%を下回った。あいさつについては、今後、より一層習慣化するよう取り組んでいく必要がある。

(4) 健康・安全・体力向上活動の推進

- ① 年間を通じPTAパトロールを実施していただき、下校時の児童の安全確保にご協力をいただくことができた。
- ② 地震、火災、不審者侵入を想定した避難訓練を実施することができた。また、引き渡し訓練を実施することができた。

(5) その他

- ① 総勤務時間の縮減に向けて取り組んできた結果、昨年度と比較し、1人あたりの月平均時間外勤務時間が減少した。今後も引き続き以下の点についてより一層意識し、取り組んでいく必要がある。
 - ア 月45時間を超える時間外労働をなくすこと
 - イ 定時退校日の徹底
 - ウ 放課後の会議を60分以内で終了

〈学校関係者評価の結果〉

令和8年2月20日、自治会、PTA、青少年健全育成関係団体、スポーツ少年団、放課後児童クラブ、公民館等の公共施設の関係者が集まる学校運営協議会の場で学校関係者評価を実施し、以下のご意見をいただいた。

- (1) 家庭での生活習慣や学習習慣の確立については、様々な課題がある。それらの解決のためには、学校だけでなく各家庭との協力体制が大切である。
- (3) 教員不足の状況がさらに進むと考えられ、今後とも子どもたちへのきめ細かな指導や安全確保をしっかりと行っていくために、保護者や地域によるサポート体制を強化する必要がある。

※ 「学校自己評価」「学校関係者評価」については、本「学校評価報告書」をホームページに掲載することで公表している。

3 総括評価

(1) 成果

令和7年度学校経営改革方針に基づき、本年度も互いに支え合い、全職員が丸となって教育活動を実施し、主に以下の点について成果を実感することができた。

- ① 学校満足度アンケートで「学校で、いじめられたり悪口を言われたりすることなく、安心して過ごせている」と答えた児童の割合が昨年より7%上回った。今後も引き続き、児童が笑顔で楽しく学校生活を過ごせる取り組みを進めていくよう努めたい。
- ② 幼児期から小学校への連続した学びを実現する津市架け橋プログラムの実施に向けて、保育園、幼稚園、小学校でワーキング会議を実施し、交流及び連携を深めることができた。
- ③ 教員が不足している状況の中、地域学校協働活動を含めた支援体制の強化（保護者や地域の方々による授業の補助や登下校時の見守り等）を検討し、具体的な取組を進めていける環境を作ることができた。

(2) 課題と今後の取組

明らかになった課題の解決を図るため、今後、主に以下のことについて、より一層取り組んでいく必要がある。

- ① 学校満足度アンケートで「学校は、楽しい」と答えた児童の割合が昨年度を下回った。今後もより一層、児童が笑顔で楽しく学校生活を過ごせるよう、児童一人ひとりに寄り添った取組を強化させていく必要がある。
- ② 国語及び算数において、引き続き基礎基本の内容の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを意識し、「思考力、判断力、表現力」の向上に取り組んでいく必要がある。
- ③ 保護者と連携し、引き続き家庭での学習習慣及び読書習慣の確立に向けて取り組んでいく必要がある。
- ④ 総勤務時間の縮減に向けて、引き続き取り組んでいく必要がある。

4 学校評価に係る資料等

別紙

(1) 学校満足度アンケートの概要（児童）

学校満足度アンケート（児童）	R 7	R 6	増減
	プラス回答	プラス回答	
学校は楽しい。	87%	90%	-3%
学校の勉強はよくわかる。	85%	86%	-1%
自分には、良いところがあると思う。	82%	80%	+2%
学校で、いじめられたり悪口を言われたりすることなく、安心して過ごせている。	87%	80%	+7%
家で、毎日、宿題などの勉強をしている。	92%	89%	+3%
家で、毎日、本を読んでいる。	41%	46%	-5%

(2) 自己評価の概要（教職員）

自己評価（教職員）	R 7	R 6	増減
	プラス回答	プラス回答	
働きがいを感じている。	93%	89%	+4%
満足感を感じている。	93%	84%	+9%